



TITLE:

戦時貿易の構成変化

AUTHOR(S):

谷口, 吉彦

CITATION:

谷口, 吉彦. 戦時貿易の構成変化. 経済論叢 1939, 48(6): 907-931

ISSUE DATE:

1939-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131255>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

經濟論叢 每月一日發行
第四十八卷第六號 昭和十四年六月一日發行
大正十四年六月三十一日第三號發售可

第十四卷 第六號

昭和十四年六月

(禁 轉 載)

論 叢

貨幣の中立性について……………

文學博士 高田保馬

現金通貨、預金通貨及び潜在通貨……………

經濟學博士 小島昌太郎

時 論

戰時貿易の構成變化……………

經濟學博士 谷口吉彦

研 究

貯蓄投資と時間要素……………

經濟學士 一谷藤一郎

カルワンの秩序と職業……………

經濟學士 澤崎堅造

隆家時代に於ける支那研究とその現代的意義……………

經濟學士 島 恭彦

說 苑

幕末の出貿易論……………

經濟學博士 本庄榮治郎

附 錄

彙 報

外國雜誌論題

本誌第四十八卷總目錄

時 論

戰時貿易の構成變化

谷 口 吉 彦

目 次

- | | | | |
|---|----------|---|---------------|
| 一 | 輸出入構成の變化 | 二 | 圓ブロック貿易と第三國貿易 |
| 三 | 地理的構成の變化 | 四 | 國際的構成の變化 |
| 五 | 商品的構成の變化 | | |

一 輸出入構成の變化

吾國の戰時經濟において、貿易問題が如何に重要な地位を占むるかに就いては、既にさきにも論述した所である¹⁾。即ち輸入においては、軍需品の輸入確保と、その爲めの民需品の輸入制限が中心問題となり、輸出においては、輸出振興による外貨の獲得が中心問題となり、是等の諸問題が如何に進展するかによつて、吾國の戰時經濟體制の運行は著しき影響を免れないからである。

それ故に吾國の戰時貿易が如何なる推移を示すであらうかは、最も注意を要する問題の一つであつた。事變勃

戰時貿易の構成變化

第四十八卷 九〇七 第六號 三一

1) 拙稿、商品リンク制の發展(本誌第四十七卷、第六號)

發以來すでに二ケ年に垂んとしてゐるが、この間に戰時貿易は如何なる推移を示して來たか、勿論この推移は種々の觀點から之を検討しうるけれども、こゝでは主として之を貿易構成の變化といふ見地より検討しようと思ふ。貿易構成もまた種々の意味における構成を問題とすることが出来る。こゝでは特に戰時貿易の立場より見て重要と思はれる構成變化につき吟味することとする。

そこで先づ第一に問題となる構成變化は、戰時貿易における輸出と輸入との關係が、如何に變化したか、換言せば輸入超過か輸出超過か輸出入均衡か、即ち貿易差額の變化如何の問題である。吾々はさきに一九三〇年の世界恐慌を中心として、その前後九ケ年にわたる輸出入構成を検討したが、こゝでは戰時貿易を含めての其後の三ケ年における構成變化を見れば、第一表の如くである。

第一表について先づ第一に、貿易總額の變化を見るに、昭和六年の最低額より年々累進して、事變勃發の昭和十二年には、最高額に達して六十九億五千八百萬圓を示してゐる。之に朝鮮・臺灣・南洋の貿易を加算すれば、優に七十二億七千三百萬圓に達し、吾國として未曾有の記録を止めてゐる。然るに事變第二年の昭和十三年には、輸出ことに輸入の減退著しく、總額五十三億六千八百萬圓に激減してゐる。これは實に二割六分の減退である。即ち吾々は戰時貿易總額の著減を否定することは出来ない。併しながら之は未曾有の總額に達した前年に比較してのことであつて、前々年の事變前の昭和十一年に比すれば、殆んど著しき減退を示してゐない。即ち總額より見たる戰時貿易は、事變前より引つゞき現はれてゐた著増傾向を、一時的に頓挫せしめたと言ふに過ぎず、何ら積極的な著減を示してゐるものではないと言ふことが出来る。これは物價變動をそのまゝに含めてのことである

2) 拙著、貿易統制の研究、(第二卷)第一篇、第五章乃至第七章參照。

3) 拙著、同上、第一篇第七章 P. 119—122.

第一表 輸出入構成の變化

		貿易 結 額		貿易 指 数		輸 出		輸 入		差 額	
		價 額	前年を 100 とする歩合	価額指数	數量指数	價 額	前年を 100 とする歩合	價 額	前年を 100 とする歩合	價 額	輸入を 100 とする輸出
	昭和	千円	%			千円	%	千円	%	千円	%
I	2	4,171,471	84.3	103.1	—	1,992,317	97.4	2,179,54	91.7	-186,835	91.4
	3	4,168,270	99.9	100.0	100.0	1,971,955	99.0	2,196,315	100.8	-224,359	89.8
	4	4,364,858	104.5	104.7	107.8	2,148,619	109.0	2,216,240	103.9	- 67,621	96.9
II	5	3,915,923	69.1	72.4	97.0	1,469,852	68.4	1,546,070	69.8	- 76,218	95.1
	6	2,382,653	79.9	57.2	103.9	1,146,981	78.0	1,235,672	79.9	- 88,691	92.5
	7	2,841,453	119.3	68.2	112.3	1,409,991	122.9	1,431,461	115.8	- 21,469	98.5
III	8	3,778,265	133.0	90.6	120.5	1,861,045	132.0	1,917,219	133.9	- 56,174	97.1
	9	4,454,526	117.9	106.9	136.1	2,171,924	116.7	2,282,601	119.1	-110,676	95.2
	10	4,971,309	111.6	119.3	149.2	2,499,073	115.1	2,472,236	108.3	+ 26,836	101.1
IV	11	5,456,657	109.8	130.9	163.5	2,692,976	107.9	2,763,681	114.8	- 70,705	97.5
	12	6,958,596	127.5	166.9	171.6	3,175,418	118.0	3,783,177	136.9	-607,759	83.9
	13	5,368,014	77.1	128.8	135.0	2,689,677	84.7	2,663,337	70.4	+ 26,340	101.1
I	三ヶ年 平 均	4,234,866	99.6	101.6	103.9	2,037,630	101.8	2,197,236	97.8	-159,606	92.7
II	三ヶ年 平 均	2,746,676	89.1	65.9	104.4	1,342,275	89.8	1,404,401	88.5	- 62,126	95.4
III	三ヶ年 平 均	4,401,367	120.8	105.6	135.3	2,177,347	121.3	2,224,019	120.4	- 46,671	97.8
IV	三ヶ年 平 均	5,927,756	104.8	142.2	156.7	2,852,690	104.3	3,070,065	107.4	- 21,737	94.2

が、之を除外しても略々同様のことが言ひ得る。それは第一表中の數量指数によつて示されてゐる。

第二に、輸出入構成すなはち輸出と輸入との關係が如何に構成されてゐるかは、戰時の國際收支に關聯して特に重要な問題であるが、事變前の數年においては、次第に均衡狀態に近づき、稀には出超を示す年もあつた。然るに事變第一年の昭和十二年には、實に六億圓を超ゆる稀有の入超を示すことゝなつた。そのために第二年には極端なる輸入制限を行ふことゝなり、その結果として昭和十三年の貿易差額は著しく改善せられて、却つて出超二千六百萬圓を示してゐる。固より之には後に問題とする圓ブロック貿易の關係を顧慮せねばならぬが、少くとも第一年に比較しては、輸出入構成は誠に顯著な改善と言はねばならぬ。

戰時貿易における右の著しき構成變化は、何故に惹きおこされたものか、即ち輸出の減退または増進によるか、輸入の増進または減退によるかと言ふに、まづ第一年の巨額の入超は、前年に比して五億圓に近き輸出増進のあるに拘らず、十億圓以上の輸入増加を見た爲めである。即ち事變勃發の後半期において、急激な輸入増加の行はれたために現はれた入超である。然るに第二年における顯著な改善は、輸出の増進によるものではなく、輸出は却つて前年よりも約五億圓の減退を示してゐる。それにも拘らず出超の現はれたのは、輸出の減退以上に著しき輸入の減退を見たからである。即ち輸入は前年に比し約十一億圓の減少を示してゐる。而してこの減少は言ふまでもなく自然的減少ではなく、人爲的な輸入制限の結果である。

かくして事變第二年の貿易上の變化は、貿易總額の減退と貿易差額の改善として現はれた。これは事變第一年の貿易狀態すなはち貿易總額の激増・貿易差額の悪化と全く對照的である。この二種の貿易狀態のうち、戰時經濟より見て何れを可とすべきか、總額の増進と差額の改善と、二者併せ得れば固より萬全ではあるが、前者は國

内産業または生産力確保の立場より、後者は國際收支または爲替維持の立場より重要である。言はゞ前者は産業資本的の貿易であり、後者は金融資本的の貿易である。即ち事變第一年の貿易は産業的であり、第二年の貿易は金融的であつたと言へる。將來の貿易對策としては、勿論この兩者を兼備する貿易を理想とせねばならぬが、併し貿易は相手國あつての相對の問題であるから、貿易總額ことに輸出増進の如きは、必ずしも期待通りの結果を得られるものではない。輸出振興のためには、あらゆる努力を続けねばならぬけれども、併し現實の戰時貿易は、一般に前述の金融的貿易となる傾向が強い。またそれは戰時對策として可能でもある。人は吾國の戰時貿易を不當に悲觀して、國際收支の惡化または爲替相場場の下落を杞憂するものもあるが、併し輸入制限の適當に行はるゝ以上は、この點は必ずしも悲觀を要しない。輸出・産金その他をもつて決濟しうる程度に、輸入を制限しうるからである。事變第二年の貿易狀態は、恰かもこの理論を示唆するものゝ様である。

二 圓ブロック貿易と第三國貿易

前節に検討したる輸出入構成の變化は、全體としての吾國の貿易を見たものであるが、之を國際收支または爲替相場場の見地より見れば、今日では謂はゆる圓ブロック貿易を除外して、第三國貿易についてのみ検討せねばならぬ。蓋し圓ブロック地域に對する輸出入は、その金融上の關係においては全く國內と同じく、輸出入とも圓貨を以つて決濟せられるのであるから、輸入超過も外貨の支拂とはならず、輸出超過も外貨の獲得とはならないからである。そこで事變以來の貿易において、この圓ブロック貿易が如何なる推移を示しつゝあるか、從つてまた

之を除外したる第三國貿易が、如何なる推移を示しつゝあるかは、戰時の國際收支または爲替相場の上より見て、極めて重要な問題となりつゝある。この問題を除外しては、實は吾國の國際收支または爲替問題を論ずることは出来ないわけである。

この問題はまた之を構成變化の點より見れば、一つの金融的構成または政治的構成の變化として考ふことも出来る。吾々はさきに種々の意味における貿易構成を検討したるが、その當時は此の種の構成は未だ重要な問題とはなつてゐなかつた。然るに事變勃發後の東亞における狀勢の變化は、新たに此の種の構成問題を重要とすることゝなつた。之は單純なる地理的構成または國際的構成ではなく、貿易決済上の區別または國際金融上の區別による構成である。從來イギリスの如きは、この種の貿易を多量に包含してゐたものである。併しながら之は謂はゆる内貨手形による決済地域とはまた別の意味である。蓋し從來イギリスの貿易は、殆ど總て自國貨すなはち磅手形によつて決済せられ、吾國の如きも印度・南洋向けの爲替には圓手形を用ふこともあるが、併しこれは單に爲替手形の額面を何れの通貨にて表示するかの問題であつて、相手國の國內通貨とは何等の關係はない。従つてたとひ圓手形の場合でも、外國におけるその支拂は、その國の通貨をもつて行はれるのであるから、輸入には外貨を必要とし、輸出では外貨を獲得することゝなる。従つてこれは外貨と關係なき圓ブロック貿易とは全く異なることは言ふまでもない。何れにせよ、圓ブロック貿易または之を除外したる第三國貿易の地位が、如何なる推移を示しつゝあるかは、通貨または爲替上の見地よりする構成の變化であり、同時にまた兩地域の政治的な相互關係に依存するものであるから、或る意味では之を政治的構成といふことも出来る。左に圓ブロック貿易お

1) 拙著、貿易統制の研究(第二卷)第一篇、第五章乃至第七章参照。

よび第三國貿易に關する最近の變化を見るために、先づ輸出に關する第二表を作成する。

第二表 圓ブロック輸出の比率

	圓 ブ ロ ッ ク 輸 出					第三國 輸 出	
	滿洲國	關東州	中華民國	合 計	輸出總額に對する比率	輸出價額	輸出總額に對する比率
昭和7	14,248	120,583	141,177	276,008	19.6	1,133,983	80.4
8	82,071	211,068	108,253	401,392	21.6	1,459,653	78.4
9	107,151	295,868	117,062	520,081	24.0	1,651,843	76.0
10	126,045	300,269	148,788	575,102	23.0	1,928,971	77.0
11	150,859	347,164	159,690	657,713	24.4	2,035,263	75.6
12	216,091	395,916	179,256	791,257	24.7	2,384,161	75.3
13	316,322	536,317	312,900	1,165,539	40.3	1,524,138	59.7

いま第二表について、輸出に關する圓ブロックと第三國との構成比率を見るに、昭和七年の滿洲國成立當時にあつては、勿論まだ圓ブロックは成立してはゐなかつたけれども、假りにその地域について見れば、僅かに二割以内を占むるに過ぎず、他の八割は第三國への輸出であつた。然るに圓ブロック地域のその後の躍進は誠に目ざましきものあり、滿洲國・關東州・中華民國いづれも激増して、その絶對額は四倍以上に増加し、相對的地位もまた次第に向上しつゝあつた。

かゝる一般的傾向に對して、戰時貿易は如何なる變化を與へたかと言ふに、事變第二年の貿易においては、更に圓ブロック輸出の躍進的增加が認められる。即ち絶對額においては十一億六千五百萬圓、相對的比率においては全貿易の四〇・三%を占むるに至つた。従つて第三國輸出の絶對的著減および相對的減退を認められる。而かも此の年においては、周知の如く圓ブロック輸出は著しき制限を受けたものである。今もし之を第三國輸出と同等の取扱をなしたものとせば、その激増は實に眼ざましきものがあつたに相違ない。

第三表 圓ブロック輸入の比率

	圓 ブ ロ ッ ク 輸 入				第三國 輸 入		
	滿洲國	關東州	中華民國	合 計	輸入總額に對する比率	輸入價額	輸入總額に對する比率
昭和 7	千円 25,998	千円 76,720	千円 102,776	千円 205,464	% 14.4	千円 1,225,997	% 85.6
8	147,897	20,161	113,357	281,415	14.7	1,635,804	85.3
9	164,211	27,220	119,562	310,993	13.6	1,971,608	86.4
10	119,005	25,517	133,815	350,337	14.2	2,121,899	85.8
11	205,566	33,848	154,837	394,251	14.3	2,369,430	85.7
12	249,071	45,198	143,636	437,905	11.6	3,345,272	88.4
13	339,116	60,322	164,611	564,049	21.2	2,099,288	78.8

第二に、輸入における同様の變化如何を見るために第三表を掲げる。第三表について輸入における圓ブロックと第三國との構成を見るに、輸出に比しては圓ブロックの重要性は輕く、且つその絶對額においては漸増の傾向にあつたけれども、その相對的地位は却つて漸減の傾向にあつた。これは吾が國民經濟の躍進時代および準戰時代を経過すると共に、輸出用原料品および軍需用資財の第三國輸入を激増せしめた結果である。

然るに此の一般的傾向は、戰時貿易においては却つて逆轉して、昭和十三年には圓ブロック輸入の躍進を示して、全輸出の二一・二%を占めてゐる。これは事變第二年における民需品の輸入制限が、主として第三國輸入に對して行はれた結果として、その絶對的著減を來たせるに拘らず、圓ブロック輸入は却つて絶對的增加を來たしてゐるからである。かくして輸入においても輸出と同じく、戰時貿易は著しく圓ブロック貿易の重要性を加へしめ、従つて第三國貿易の減退を結果せしめた。これは誠に顯著にして注意に値する現象であると言はねばならぬ。

圓ブロック貿易に關する第三の問題は、その國際收支に關する問題で

ある。蓋し圓ブロックに對する輸出は、たゞ圓貨の獲得となるに過ぎず、少しも外貨の獲得とはならない。その代りに圓ブロックからの輸入は、圓貨の支拂を以つて足り、少しも外貨の支拂を要しない。即ち貨幣に關する限りでは、圓ブロック貿易は全く國內商業と同様である。殊に吾國が第三國より原料品を輸入し、之を製品として圓ブロック地域に輸出する場合には、原料品の輸入に對しては外貨を支拂ふに拘らず、製品の輸出によつては少しも外貨を獲得することは出来ない。即ち圓ブロック輸出によつて吾國は却つて外貨を喪失する結果となる。これは吾國の戰時經濟より見て、甚だしく不利である。蓋し今日の吾國において何よりも緊要なることは、出來うる限りの外貨を獲得して、之をもつて必要な軍需品の輸入に充當せねばならないからである。この理由から昨年以來この圓ブロック輸出にも制限を加ふることとなり、こゝに種々の問題を提起しつゝあるわけであるが、是等の政策問題については、他の機會にゆづり、茲ではたゞ事實の問題として、圓ブロックおよび第三國に對する國際收支の關係が、戰時貿易において如何なる變化を現はしつゝあるかを検討するに止める。そのために第四表を作成した。

第四表について見るに、圓ブロック貿易は終始一貫して出超であり、第三國貿易は常に入超である。これは兩者ともに外貨の獲得となるものならば、圓ブロック貿易は吾國にとり有利であり、第三國貿易は不利なる貿易となるわけではあるが、併し前述の如く前者の出超は外貨の獲得とならず、後者の入超のみ外貨の支拂となつて、吾國にとり極めて不利なる貿易である。若しもこれが逆となつて、圓ブロックからは入超となり、第三國へは出超となるならば、吾國の國際收支上は最も有利な關係となるわけである。

然らば右の關係は戦時貿易において如何なる變化を來したかと言ふに、第四表に現はるゝ如く、事變第二年の

第四表 圓ブロック貿易の收支關係

	圓ブロック貿易			第三國貿易			全貿易		
	輸 出	輸 入	差 額	輸 出	輸 入	差 額	輸 出	輸 入	差 額
昭和7	276,008	205,484	- 70,544	1,133,989	1,225,997	- 92,014	1,409,991	1,431,461	- 21,469
8	401,392	281,415	+ 119,977	1,450,653	1,635,804	- 176,151	1,861,045	1,917,219	- 56,174
9	520,081	310,993	+ 209,088	1,651,843	1,971,608	- 319,765	2,171,924	2,282,601	- 110,676
10	575,102	350,337	+ 224,765	1,923,971	2,121,899	- 197,928	2,499,073	2,472,236	+ 26,836
11	657,713	394,251	+ 263,462	2,035,263	2,369,430	- 334,167	2,692,976	2,763,681	- 70,705
12	791,257	437,905	+ 353,352	2,384,161	3,345,272	- 961,111	3,175,418	3,783,177	- 607,759
13	1,165,539	564,049	+ 601,490	1,524,138	2,099,288	- 375,150	2,689,677	2,663,337	+ 26,340

圓ブロックへの出超は實に六億圓を超ゆるの巨額に達してゐる。而かも之は圓ブロック輸出の相當に制限された年である。この點より見る時は、戦時貿易の變化はたゞ從來からの傾向をより、強化したと言ふに過ぎない。それ故に吾國の實質的な國際收支は、さきに検討したるが如き全體としての輸出入差額ではなく、圓ブロック貿易を除外したる第三國貿易の輸出入差額でなければならない。即ち事變第一年においては九億六千百萬圓の入超、第二年においては五億七千五百萬圓の入超であり、これが對外支拂を必要とする貿易上の差額である。事變第二年の貿易は全體として二千六百萬圓の出超ではあるが、併し對外支拂を要する第三國貿易は、尚ほ巨額の入超である。たゞ相對的の意味においては、前年に比し入超は半減して、貿易差額が著しく改善されたことは疑ひ得ない。

三 地理的構成の變化

世界各洲に對する吾國の輸出および輸入が、如何なる割合に構成せらるゝかを、假りに地理的構成と呼ぶならば、この構成は最近の戰時貿易において如何なる變化を示しつゝあるか、蓋しこの構成の變化は、さきにも述べたる如く、¹⁾世界の經濟構成における變化と、吾國の經濟構成における變化との綜合的結果として現はれるものであるから、假りに世界の經濟構成に著しき變化が起らなかつたとしても、吾國の戰時經濟の構成變化ならびに戰時貿易の構成變化が著しく現はれるならば、それは必然にこの意味の地理的構成の上にも現はれねばならぬからである。併しながら地理的構成は後に問題とする國際的構成の綜合されたるものであるとは言へ、それに比しては多分に地理的・自然的影響を受けるものであるから、歴史的・政治的影響を多分に受ける國際的構成に比すれば、政治的要素の強い戰時經濟の影響を受けることは、比較的に少いであらうとも考へられる。

今まづ第一に、輸出の地理的構成の變化を見るために、最近の世界各洲への輸出價額およびその比率を從來のそれと對照せしめて第五表を掲げる。

いま第五表について輸出の地理的構成の變化を見るに、戰時輸出の著しき變化を認めることが出来る。即ち第一に、亞細亞洲に對する輸出比率の著増を認められる。之は前述の圓ブロック貿易の進出と照應するものであるが、事變第二年の昭和十三年には、實に六一・九%を占むるに至つた。この傾向はすでに事變前約十年間の一般の傾向であつたが、この傾向が事變によつて特に拍車づけられたことを認めねばならぬ。第二に、その他の諸洲

1) 拙著 貿易統制の研究(第二卷) P. 122.

第五表 輸出の地理的構成

		亞細亞洲		歐羅巴洲		北亞米利加洲		中央亞米利加洲		南亞米利加洲		亞非利加洲		太平洋洲	
	昭和	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
I	2	844,534	42.4	147,892	7.4	866,748	43.5	—	—	20,886	1.0	51,234	2.6	61,021	3.1
	3	834,934	42.3	160,345	8.1	858,598	43.5	—	—	21,130	1.1	43,924	2.2	53,021	2.7
	4	915,232	42.6	147,248	6.9	947,734	44.1	—	—	23,025	1.1	60,534	2.8	54,842	2.5
II	5	704,030	47.9	127,954	8.7	524,507	35.7	4,274	0.3	16,414	1.1	57,039	3.9	35,631	2.4
	6	505,018	44.0	104,111	9.1	438,865	38.3	3,301	0.3	10,225	0.9	58,868	5.1	26,591	2.3
	7	677,613	49.1	125,748	8.9	453,965	32.2	5,130	0.4	13,133	0.9	85,695	6.1	47,277	3.3
III	8	930,636	50.0	182,077	9.8	499,156	26.8	16,175	0.9	30,379	1.6	137,238	7.4	65,380	3.5
	9	1,160,503	53.8	227,772	10.5	407,614	18.8	43,295	2.0	61,457	3.8	182,396	8.4	79,885	3.7
	10	1,304,433	52.2	262,831	10.5	543,399	21.7	36,026	1.4	73,361	2.9	183,527	7.3	95,492	3.8
IV	11	1,370,969	50.9	307,717	11.4	608,857	22.6	41,240	1.5	68,780	2.6	197,702	7.3	97,726	3.6
	12	1,645,914	51.8	356,298	11.2	659,601	20.8	54,885	1.7	109,519	3.4	242,735	7.6	106,453	3.4
	13	1,664,725	61.9	261,003	9.7	440,404	16.4	29,414	1.1	60,151	2.2	137,335	5.1	96,609	3.6
I 三ヶ年平均		864,900	42.4	151,828	7.5	891,027	43.7	—	—	21,680	1.1	51,897	2.5	56,295	3.8
II 三ヶ年平均		678,887	46.7	119,271	8.9	472,446	35.4	4,235	0.3	13,257	1.0	67,201	5.0	36,500	2.7
III 三ヶ年平均		1,134,857	52.0	224,227	10.3	433,590	22.4	31,832	1.4	55,066	2.4	167,720	7.7	80,252	3.7
IV 三ヶ年平均		1,560,536	54.9	380,339	10.8	569,620	19.9	28,513	1.4	79,478	2.7	192,591	6.7	100,266	3.5

ことに北米および歐洲に對する輸出比率の著減を認めねばならぬ。北米の如きは從來は二〇%以上を占めてゐたものが、事變第二年には一六・四%に激減し、歐洲に對しては、從來は一〇%以上を占めてゐたものが、九・

七%に低落してゐる。而して最近十年間の傾向では、北米に對しては漸減傾向にあつたが、事變は之を更に激減することとなり、今日では輸出市場としての北米は、殆んどその重要性を失ひつゝある。また歐洲に對する輸出は、漸増傾向にあつたものであるが、事變の影響はこの傾向を逆轉せしめて、却つて漸減傾向を示す様である。その他に對しても、それ／＼興味ある變化を示してゐるが、是等に就ては第二表について詳細に觀察することが出来る。

次に輸入の地理的構成の變化を見るために、同様の趣意より成る第六表を掲げる。

第六表について戰時輸入の構成變化を見るに、まづ第一に、北米および歐洲よりの輸入比率の著増が認められる。北米は最近十年間、殆んど著しき變化を示してゐなかつたが、二三年來急増し來り、事變第二年においては、三七・八%に達してゐる。歐洲は漸減傾向にあつたものが、これまた數年來急増し來り、一四・一%に達してゐる。之に對して亞細亞洲よりの輸入は、依然として最大の三八・四%を占めてゐるが、併し之は事變による變化といふわけではない。第二に、中米・南米・亞弗利加・太平洋は、何れも事變により著しくその重要性を失つて來た。即ち事變の結果は、まず／＼輸入の集中性を強めることとなり、歐米・亞の如き重要地方からの輸入比率は一般に増大し、之に反して他の第二流地方からの輸入比率は著しく減退してゐる。之は戰時輸入の特殊性より來る必然の現象かと考へられる。

最後に、輸出と輸入とを綜合して、前論に指摘しおきたる一般的傾向は、戰時において如何なる變化を示しつゝあるかと言ふに、第一に、亞細亞貿易は、輸出において過半の地位を占めて向上去であり、輸入において約三

第六表 輸入の地理的構成

		亞細亞洲		歐羅巴洲		北亞米利加洲		中央亞米利加洲		南亞米利加洲		亞非利加洲		太平洋洲	
	昭和	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
I	2	872,910	40.1	387,739	17.8	739,972	34.0	—	—	10,477	0.5	36,401	1.7	127,225	5.8
	3	903,199	41.1	403,639	18.4	693,620	31.6	—	—	12,199	0.6	32,209	1.5	136,550	6.3
	4	857,953	38.6	419,847	18.9	724,347	32.7	—	—	14,263	0.6	42,537	1.9	138,601	6.3
II	5	632,503	40.9	279,719	18.1	489,146	31.6	387	—	6,834	0.4	23,977	1.6	98,113	6.3
	6	943,952	40.0	199,748	16.2	878,002	30.6	188	—	7,097	0.6	13,226	1.5	117,482	9.5
	7	450,910	31.5	225,261	15.7	549,400	38.4	656	—	4,680	0.3	27,450	1.9	139,921	9.8
III	8	658,557	34.3	282,802	14.8	667,711	34.8	438	—	12,872	0.7	48,406	2.5	211,391	11.0
	9	812,090	35.6	295,622	13.0	823,476	36.1	856	—	23,962	1.0	79,573	3.5	214,295	9.4
	10	869,871	35.2	352,276	74.2	802,183	34.9	8,033	0.3	42,908	1.7	69,185	2.8	248,916	10.1
IV	11	1,060,189	38.4	330,124	11.9	920,747	33.3	21,790	0.8	112,188	4.1	108,142	3.9	210,497	7.6
	12	1,295,114	34.2	504,001	3.3	1,374,252	36.3	18,765	0.5	162,610	4.3	206,304	5.5	222,128	5.9
	13	1,023,431	38.4	376,266	14.1	1,006,802	37.8	7,128	0.3	91,234	3.4	60,621	2.3	97,850	3.7
I三ヶ年平均		878,021	39.9	403,760	18.4	719,313	32.9	—	—	12,313	0.6	37,049	1.7	134,125	6.1
II三ヶ年平均		525,788	37.5	234,909	16.7	472,138	33.5	410	—	6,204	0.4	23,218	1.7	118,505	8.5
III三ヶ年平均		780,173	35.0	310,233	14.0	784,456	35.3	3,109	0.1	26,581	1.2	65,721	2.9	224,867	10.2
IV三ヶ年平均		1,126,245	37.3	403,464	13.1	1,100,600	35.8	15,895	0.5	122,011	3.9	125,022	3.6	176,825	5.7

分の一の地位を占めて下降的であり、従つて亞細亞貿易は輸入から輸出に轉換しつつあることを指摘したが、この傾向は戦時において特に顯著に現はれ、輸入市場としては大差なきに反し、輸出市場としては極めて重要なる

地位を占むるに至つた。第二に北米市場は輸出市場から輸入市場に轉換しつゝある傾向を指摘しておいたが、これまた顯著に同じ傾向を強化することとなり、輸入比率の激増に對して輸出比率の著減を示してゐる。第三の地位を占むる歐洲貿易は、輸入から輸出に轉ずる傾向にあつたが、之は戰時貿易においては却つて逆傾向を示し、輸入の漸増と輸出の漸減を示しつゝある。最後に、新市場としての中米・南米・阿弗利加・太平洋は、相對的には次第にその重要性を加へ來り、殊に輸出においてその傾向著しきことを指摘したが、之も戰時貿易において逆傾向を示し、輸出入ともに殊に輸入において、著しくその重要性を失ひつゝある。而して是等の變化は、言ふまでもなく諸外國の事情によるよりも、寧ろ吾國の戰時體制より來る必然の變化と言はねばならぬ。

四 國際的構成の變化

さきの地理的構成は之を分析すれば、結局は各國別の貿易すなはち茲に謂ふ國際的構成となるわけではあるが、併し地理的・自然的要素の強い地理的構成と、歴史的・政治的要素の強い國際的構成とは、自らまた別の意義を有すると考へられる。殊に戰時貿易の構成においては、政治的要素の多分に影響する國際的構成の變化は、より重要な意義を有すると思はれる。

いま戰時における國際的構成の變化を見るために、まづ輸出に關する第七表を作成する。

第七表 輸出の國際的構成

輸 出 先	昭和5—7年平均		昭和8—10年平均		昭和11年		昭和12年		昭和13年	
	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合
滿 洲 國	千円 —	%	千円 —	%	千円 —	%	千円 —	%	千円 —	%
關 東 州	90,979	6.8	272,402	12.5	347,164	12.9	395,916	12.4	536,317	20.0
中 華 民 國	190,666	14.2	124,701	5.7	159,690	5.9	179,250	5.6	312,900	11.6
香 港	36,814	2.7	35,549	1.6	58,445	2.2	49,150	1.5	16,753	0.5
英 領 印 度	144,040	10.7	239,670	11.0	259,107	9.5	299,366	9.3	188,040	7.0
海峽殖民地	23,866	1.8	52,663	2.4	58,770	2.2	67,432	2.1	20,696	0.7
蘭 領 印 度	76,583	5.7	152,993	7.0	129,495	4.5	200,050	5.1	104,145	3.8
佛領印度支那	2,155	0.2	3,451	0.2	4,697	0.2	4,623	0.1	3,081	0.1
露領亞細亞	18,326	1.4	16,546	0.8	22,992	0.9	23,850	0.7	4,714	0.2
比律賓諸島	23,719	1.8	36,189	1.7	51,840	1.9	60,348	1.9	32,599	1.2
暹 羅	7,593	0.6	28,810	1.3	43,028	1.6	49,381	1.5	39,268	1.4
其 他 諸 國	14,141	1.1	66,787	3.1	42,606	1.6	100,458	3.0	89,890	3.3
英 吉 利	58,205	4.2	105,525	4.8	147,309	5.4	168,237	5.0	134,972	5.0
佛 蘭 西	21,572	1.6	39,840	1.8	43,475	1.6	47,207	1.5	36,813	1.4
獨 逸	9,636	0.7	19,618	0.9	35,064	1.3	43,230	1.4	33,015	1.0
白 耳 義	2,833	0.2	10,936	0.5	16,230	0.6	20,650	0.6	10,151	0.4
伊 太 利	5,009	0.4	7,578	0.3	4,468	0.2	7,111	0.2	3,255	0.1
瑞 西	487	—	367	—	838	—	2,148	0.1	1,199	—
奧 地 利	114	—	200	—	264	—	740	—	419	—
チェコスロ ヴァキヤ	36	—	48	—	235	—	2,370	0.1	470	—
和 蘭	10,251	0.8	16,174	0.7	15,385	0.6	18,440	0.6	11,455	0.4
瑞 典	1,263	0.1	5,385	0.2	8,820	0.4	11,544	0.4	8,276	0.3
諸 威	561	—	2,973	0.1	6,171	0.2	8,900	0.3	4,561	0.2
露 西 亞	1,619	0.1	1,783	0.1	8,357	0.3	4,136	0.1	469	—
波 蘭	14	—	404	—	715	—	1,159	—	948	—
西 班 牙	824	—	2,380	0.1	1,370	0.1	19	—	12	—
丁 抹	1,344	0.1	1,344	0.1	1,430	0.1	1,399	0.1	1,360	0.1
土 耳 其	4,568	0.3	2,622	0.1	4,233	0.2	2,752	0.1	2,658	0.1
葡 萄 牙	158	—	721	—	1,411	0.1	1,519	—	1,224	—
其 他 諸 國	767	—	6,318	0.3	11,904	0.4	14,137	0.4	9,836	0.4
亞米利加合衆 國	458,899	34.2	475,518	21.8	594,251	22.0	639,423	20.0	425,103	15.7
加 奈 陀	13,177	1.0	7,741	0.4	14,554	0.5	20,035	0.5	15,243	0.6
墨 西 哥	779	—	3,421	0.2	7,189	0.3	13,622	0.4	5,316	0.2

戰時貿易の構成變化

第四十八卷

九二二

第六號

四六

玖瑪	950	—	6,087	0.2	1,493	0.1	2,016	0.1	1,346	0.1
其 他 諸 國	3,207	0.2	22,182	1.0	32,610	1.2	39,335	1.2	22,790	0.8
祕露	1,291	0.1	5,913	0.3	6,156	0.2	6,343	0.2	5,760	0.2
智利	1,187	0.1	5,187	0.2	7,425	0.2	10,741	0.3	6,123	0.2
亞爾然丁	5,567	0.4	20,292	0.9	22,711	0.9	42,480	1.3	19,607	0.7
伯刺西爾	975	—	2,918	0.1	8,840	0.3	17,305	0.5	10,388	0.4
ウルグアイ	1,895	0.1	5,030	0.2	7,891	0.3	10,106	0.3	3,988	0.1
其 他 諸 國	2,338	0.2	14,721	0.7	15,734	0.5	22,544	0.7	14,280	0.1
埃及	31,234	2.3	60,798	2.8	40,906	1.5	32,772	1.0	13,996	0.5
喜望峯殖民地	16,632	1.2	29,683	1.4	—	—	—	—	—	—
及ナタル	12,430	0.9	22,632	1.5	—	—	—	—	—	—
東部亞弗利加	6,903	0.5	52,409	2.4	—	—	—	—	—	—
其 他 諸 國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
濠太刺利	26,929	2.0	63,557	2.9	68,763	2.5	63,557	2.0	69,388	2.6
新西蘭	2,728	0.2	8,781	0.4	16,740	0.5	19,358	0.6	14,808	0.5
布哇	6,230	0.5	6,417	0.3	9,299	0.3	11,154	0.3	9,774	0.3
其 他 諸 國	610	—	1,495	0.1	2,924	0.1	12,394	0.4	2,639	0.1

いま第七表について輸出の國際的構成における著しき變化を指摘すれば、先づ滿洲國・關東州・中華民國への輸出比率の著増を注意せねばならぬ。之は前述の圓ブロツク貿易について検討したる結果と照應するものである。次いでは北米合衆國への輸出の著減である。而して是等は何れもすでに事變前より現はれてゐる一般的傾向であつて、事變はこの傾向に對して更に拍車をかけたものである。

第二に、輸入の國際的構成を見るために、次頁に第八表を作成して掲げる。

第八表について輸入貿易の變化を見るに、滿洲國よりの輸入著増、英領印度からの著減が認められる。次いでは英吉利および濠洲からの減退が著しい。北米合衆國からの輸入は、戰時においても依然として三割以上を占めて少しも減退しない。その他の諸國については何ら著しき變化を示してはゐない。

第八表 輸入の國際的構成

輸 出 先	昭和5—7年平均		昭和8—10年平均		昭和11年		昭和12年		昭和13年	
	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合	價 格	歩合
滿 洲 國	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
關 東 州	96,096	6.8	24,319	1.1	33,848	1.2	45,198	1.2	60,322	2.1
中 華 民 國	145,380	10.4	122,249	5.5	154,837	5.5	143,636	3.8	164,611	5.1
香 港	674	—	2,136	0.1	3,282	0.1	5,332	0.1	1,307	—
英 領 印 度	143,485	10.2	266,685	12.0	372,009	13.3	449,486	11.8	172,230	5.1
海峽植民地	25,371	1.8	47,579	2.1	41,174	1.5	67,795	1.8	54,167	1.9
蘭 領 印 度	48,824	3.5	65,786	3.0	113,545	4.0	153,450	4.0	88,248	3.2
佛領印度支那	6,653	0.5	11,846	0.5	20,151	0.7	27,011	0.7	20,300	0.7
露領亞細亞	33,063	2.4	22,398	1.0	6,807	0.2	3,901	0.1	379	—
比 律 賓 諸 島	9,837	0.7	19,008	0.9	36,266	1.3	45,193	1.2	35,629	1.3
暹 羅	12,277	0.9	6,417	0.3	8,756	0.3	13,570	0.3	4,950	0.2
其 他 諸 國	4,092	0.3	24,034	1.1	63,948	2.3	91,471	2.2	82,472	2.9
英 吉 利	78,217	5.6	78,248	3.5	72,941	2.6	105,772	2.8	63,156	2.3
佛 蘭 西	16,709	1.2	19,951	0.9	19,897	0.7	27,885	0.7	13,502	0.5
獨 逸	83,723	6.0	107,732	4.8	115,499	4.0	176,362	4.6	171,169	5.1
白 耳 義	6,296	0.4	18,827	0.8	16,018	0.6	41,058	1.1	15,441	0.6
伊 太 利	4,168	0.3	5,109	0.2	4,415	0.2	5,843	0.2	849	—
瑞 西	12,682	1.0	11,188	0.5	14,000	0.5	19,239	0.5	30,197	1.1
埃 地 利	1,302	0.1	3,475	0.2	4,262	0.1	9,104	0.2	10,271	0.3
チエツコスロ ヴアキヤ	2,224	0.2	1,929	0.1	2,928	0.1	5,507	0.1	3,412	0.1
和 蘭	3,234	0.2	4,414	0.2	4,556	0.2	7,030	0.2	3,937	0.1
瑞 典	9,013	0.6	20,100	0.9	23,108	0.9	49,277	1.3	24,069	0.9
諾 威	4,917	0.4	15,281	0.7	17,853	0.6	24,032	0.6	15,719	0.6
露 西 亞	2,550	0.2	6,425	0.4	14,525	0.4	9,641	0.3	377	—
波 蘭	4,008	0.3	833	—	3,823	0.1	4,640	0.1	2,670	0.1
西 班 牙	1,341	0.1	3,676	0.2	2,431	0.1	614	—	75	—
丁 抹	2,077	0.1	894	—	787	—	1,449	—	1,231	—
土 耳 其	189	—	1,328	0.1	4,474	0.2	2,817	0.1	3,711	0.1
葡 萄 牙	1,010	0.1	1,479	0.1	1,680	0.1	2,429	0.1	1,865	0.1
其 他 諸 國	1,342	0.1	5,334	0.2	6,927	0.3	11,302	0.3	14,515	0.5
亞米利加合衆 國	431,681	30.7	733,264	33.0	847,453	30.2	1,269,541	33.4	915,393	32.7
加 奈 陀	40,478	2.9	51,172	2.3	73,179	2.6	104,691	2.8	91,259	3.3
量 西 哥	245	—	2,273	0.1	18,680	0.6	14,262	0.4	4,518	0.2

戰時貿易の構成變化

第四十八卷

九二四

第六號

四八

玖 瑪	77	—	210	—	400	—	601	—	47	—
其 他 諸 國	103	—	641	—	2,825	0.1	3,922	0.1	2,714	0.1
秘 露	104	—	4,930	0.2	13,000	0.5	6,277	0.2	1,974	0.1
智 利	2,268	0.2	3,624	0.2	9,953	0.4	14,719	0.4	11,151	0.4
亞 爾 然 丁	2,811	0.2	11,745	0.5	29,988	1.1	42,017	1.1	24,356	0.9
伯 刺 西 爾	504	—	2,768	0.1	47,352	1.7	62,810	1.7	46,173	1.7
ウ ル ゲ ア イ	391	—	2,480	0.1	9,528	0.5	33,926	0.5	4,157	0.2
其 他 諸 國	124	—	1,028	—	2,367	0.1	2,861	0.1	3,423	0.1
埃 及	16,525	1.2	46,339	2.1	45,736	1.6	74,117	2.0	36,314	1.3
喜 望 峯 殖 民 地	1,865	0.1	5,769	0.2	—	—	—	—	—	—
及 ナ タ ル	3,382	0.2	12,328	0.6	—	—	—	—	—	—
東 部 亞 弗 利 加	1,449	0.1	13,183	0.5	—	—	—	—	—	—
其 他 諸 國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
濠 太 刺 利	113,942	8.1	212,490	9.6	181,914	6.1	165,251	4.0	82,875	3.0
新 西 蘭	1,099	0.1	6,785	0.3	21,972	0.8	48,632	1.3	10,210	0.3
布 哇	291	—	192	—	269	—	823	—	895	—
其 他 諸 國	3,170	0.2	5,397	0.2	6,342	0.2	7,422	0.2	3,870	0.1

五 商品的構成の變化

貿易構成のうち理論的に最も興味のある問題は、貿易商品の構成にあるが、いま戰時貿易の變化を見るに當つてもまた、この商品的構成の變化が、興味の中心となる問題である。

商品の構成にもまた種々の内容を區別しうるが、茲では先づ貿易品のうち、食料品・原料品（粗生および製品）¹⁾、全製品の區別による構成を問題とする。この意味の貿易構成については、片々はすでに吾國の事變前の狀態ならびに最近十年間の傾向につき、研究したる所である。こゝでは之を繼承して、事變勃發後に於けるその構成變化を主題とするものである。

まづ第一に、輸出商品の構成變化を見るために、第九表を作成して掲げる。

第九表について見るに、輸出商品のうち食料品の比率

1) 拙著 貿易統制の研究(第二卷) p. 76—83.

第九表 商品輸出構成の變化

	食 料 品		原料品(粗生)		原料品(製品)		全 製 品	
	價 額	歩合	價 額	歩合	價 額	歩合	價 額	歩合
昭和	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
1	147,295	7.2	140,250	6.9	881,863	43.1	852,118	41.7
2	145,562	7.3	137,324	6.9	852,183	42.8	831,236	41.7
3	156,280	7.9	88,548	4.5	823,714	41.8	812,949	41.2
4	160,118	7.5	88,739	4.1	883,775	41.1	937,307	43.6
5	128,820	8.8	64,497	4.4	524,099	35.7	691,190	47.0
6	102,297	8.9	44,802	3.9	422,844	36.9	532,930	46.5
7	104,328	7.4	51,008	3.6	486,195	34.5	700,509	49.7
8	157,988	8.5	73,765	4.0	538,793	29.0	1031,576	55.4
9	171,931	7.9	95,739	4.4	498,529	23.0	1345,512	61.9
10	197,110	7.9	110,463	4.4	672,413	26.9	1451,330	58.2
11	203,707	7.6	126,585	4.7	716,366	26.6	1563,439	58.1
12	248,084	7.8	133,136	4.2	814,591	25.7	1890,716	59.5
13	300,214	11.2	105,185	3.9	672,232	25.0	1569,597	58.4
最近五年平均	224,209	8.5	114,222	4.3	674,826	25.4	1564,120	59.2
最近三年平均	250,668	8.9	121,635	4.3	734,396	25.8	1674,584	58.6

戦時貿易の構成變化

第四十八卷 九二六 第六號 五〇

は、最近十年間は殆んど著しき變化はなく、大體八%未満の程度にあつた。然るに戦時貿易は茲に著しき變化を與へ、食料品の輸出比率は著増して一一・二%となつてゐる。之は吾國の國民經濟の特殊性より來る重要な問題であつて、戦時において食料品輸出の増加するが如きは、實に吾國の特殊的優秀性を實證するものとして、最も注意を要する興味ある變化と言はねばならぬ。原料品と共に粗生原料品の輸出比率が稍々減退を示してゐるのは、また戦時經濟ことに吾國の特殊性より來る必然の結果と考へられる。全製品の輸出比率は戦時において著しい變化を示してゐない。

是等の變化を事變前の一般傾向と比較するに、全製品の漸増傾向においては何ら著しい變化を與へず、そのまゝに持續せられてゐる。原料品の漸

第十表 商品輸入構成の變化

	食 料 品		原料品(粗生)		原料品(製品)		全 製 品	
	價 額	歩合	價 額	歩合	價 額	歩合	價 額	歩合
昭和	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
1	350,280	14.7	1341,918	54.4	357,181	15.0	314,990	13.2
2	323,540	14.8	1201,982	55.2	348,160	16.0	290,475	13.3
3	298,543	13.6	1165,198	53.1	382,843	17.4	332,544	15.1
4	271,156	12.2	1223,917	53.2	355,393	16.0	345,913	15.6
5	208,296	13.5	828,552	53.6	236,427	15.3	255,009	16.5
6	158,612	12.8	684,338	56.4	181,136	14.7	197,533	16.0
7	160,671	11.2	838,799	58.6	201,231	14.1	219,619	15.3
8	173,185	9.0	1181,146	61.6	328,790	17.1	220,328	11.5
9	174,448	7.6	1413,856	61.9	415,842	18.1	262,644	11.5
10	192,605	7.6	1507,620	61.0	468,616	19.0	286,292	11.6
11	231,164	8.4	1737,716	63.9	476,566	17.2	294,258	10.6
12	251,470	6.6	1994,563	52.7	1095,256	29.0	420,798	11.1
13	199,246	7.5	1295,659	58.8	702,009	26.4	447,904	16.8
最近五年平均	209,787	7.5	1589,883	56.5	631,658	21.9	342,379	12.3
最近三年平均	227,293	7.5	1675,979	51.5	757,944	24.2	387,653	12.8

減傾向も大體は同様に持續せられ、たゞ粗生原料品について同じ傾向が著しく強化される様である。食料品は從來の停止傾向を破つて著増してゐる。すべて是等の變化は、戰時經濟および戰時貿易の立場より、それ／＼に理論的説明の可能なる變化である。

第二に、輸入商品について同じ構成變化を見るために第十表を作成した。

第十表について輸入商品を見るに、先づ食料品の輸入比率は、事變勃發後において減退してゐる。これは前表の食料品輸出の増加と相照應してわが國の戰時經濟の最も優秀なる一面の現はれた現象として最も注意を要し且つ興味を呼ぶ點である。次に原料品については、粗生において減退し、製品において増進してゐる。之は恐らく事變勃發の

當初においては、粗生原料品よりも差當り直ちに生産に役立つ製品原料品の輸入を促進したがためであらう。全製品の輸入比率が著しく増加してゐるのも、恐らく戰時において必要なる完成品の急速な輸入を要した爲めであらう。是等の變化を最近の一般的傾向と對比する時は、全製品の輸入比率は最近の漸減傾向を逆轉せしむるものであり、粗生原料品の減退もまた最近の漸増傾向を反對の意味において逆轉せしめ、製品原料品の著増は、最近の漸増傾向を促進するものである。また食料品輸入の減退は、最近の減退傾向を同じ方向に促進せしめて、戰時においても何等の變化なきのみならず、却つてその傾向を強化せしめた所に、吾國の強味を示してゐる。

次に右の食料品・原料品・全製品のそれ／＼について、その構成的内容の變化を詳細に検討することも、固より重要な問題ではあるが、茲では紙面の都合上これを割愛し、別の見地から商品内容の構成變化を検討するとする。即ちさきに『貿易商品の集中性と分散性』²⁾を検討したる場合に見たるが如く、主要商品を摘出して、それがその年の貿易總額において占むる比率を検討することにより、その構成變化を検出せんとする方法である。

まづ第一に、主要輸出品について、輸出總額に對するそれ／＼の比率を算出して第十一表を作成した。

いま第十一表について戰時における構成變化を見るに、最も著しき變化は、第一に、罐頭詰食料品および小麦粉の著増と機械及部分品の著増を認めねばならぬ。これは何れも戰時經濟と矛盾するかに見えるが、併し前者は前述の食料品輸出の著増と照應し、後者は大陸開發の進展に伴ふ現象である。次には生糸・綿織物・絹織物の如き輕工業品の減退傾向が認められる。これは戰時經濟の内部構造の變化より來る結果と考へられる。何れにせよ

2) 拙著『貿易統制の研究(第二卷)』p. 88—92. 第一章 第六節
3) 拙著『貿易統制の研究(第二卷)』第一章 第六節

第十一表 主要輸出品の比率

	生糸	絹織物	人絹織物	絹織物	罐食料品	製菓用品	陶磁器	小麥粉	鐵類	玩具	鐵製物品	鐵形機及品	木材	紙類	絹織絲	箱罐	石灰	毛織物	水産物	皮革絲及箱	計
昭和1	35.9	20.4	—	6.5	0.8	1.3	1.6	0.8	0.2	0.5	0.6	0.4	0.9	0.9	3.5	1.7	1.5	0.2	1.1	0.8	79.5
2	34.4	19.2	—	7.0	1.0	1.5	1.5	0.7	0.2	0.5	0.6	0.6	0.8	1.0	1.9	1.5	1.3	0.1	1.0	0.6	75.4
3	37.2	17.9	—	6.8	1.2	1.7	1.8	1.3	0.2	0.6	0.7	0.5	0.9	1.3	1.3	1.9	1.2	0.2	0.9	0.6	78.2
4	36.3	19.2	—	7.0	1.2	1.7	1.7	1.2	0.2	0.6	0.7	0.6	1.0	1.2	1.2	1.4	1.1	0.2	1.0	0.6	78.1
5	28.4	18.5	—	6.9	1.5	2.1	1.8	1.0	0.6	0.8	1.0	0.9	1.0	1.9	1.0	1.8	1.5	0.2	1.2	0.4	72.5
6	31.0	17.3	—	7.2	1.7	1.8	1.7	0.8	0.6	0.9	0.9	1.2	0.9	1.8	0.7	1.3	1.3	0.1	0.9	0.2	72.3
7	27.1	20.5	4.3	3.6	1.6	1.9	1.6	1.5	0.8	1.1	1.0	0.8	0.8	1.0	1.5	0.5	1.0	0.3	0.6	0.1	69.6
8	21.0	20.6	4.2	3.4	2.5	2.3	1.9	1.9	1.8	1.4	1.4	1.4	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.1	69.6
9	13.2	22.7	5.2	3.6	2.3	2.2	1.9	1.3	2.4	1.4	1.6	2.7	1.1	1.0	1.1	0.6	0.5	1.4	0.7	0.1	77.0
10	15.5	15.3	5.2	3.6	2.3	2.0	1.7	1.3	2.6	1.4	1.5	2.5	0.9	0.9	1.2	0.6	0.4	1.3	0.8	0.1	62.1
11	14.6	18.0	5.5	2.5	2.6	1.8	1.6	0.7	2.8	1.4	1.5	3.0	0.9	1.0	1.4	0.8	0.4	1.7	0.8	0.06	61.1
12	12.8	18.0	4.9	2.3	2.7	2.0	1.7	1.0	—	1.3	1.7	3.5	1.1	1.2	1.7	0.6	0.3	1.5	0.7	0.1	59.1
13	13.5	15.0	4.3	1.8	3.5	1.5	1.7	2.3	—	1.0	1.9	5.8	1.7	1.9	1.5	0.9	0.4	1.7	0.8	0.05	60.9
平均	24.7	18.6	4.8	4.2	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.3	1.2	1.8	1.3	1.2	1.5	1.1	0.9	0.7	0.8	0.3	70.3
最近三年平均	13.5	17.0	4.9	2.2	2.9	1.8	1.3	1.3	—	1.3	1.7	4.1	1.2	1.4	1.5	0.8	0.4	1.6	0.8	0.07	60.4

輸出比率における變化は、次の輸入の場合に比すれば、全體としてさきで顯著な變化を示してはゐない。

第二に、主要輸入品について同様の變化を検討するために、第十二表を掲げる。

第十二表 主要輸入品の比率

	棉 花	羊 毛	鐵 類	機部 械分 及品	豆 類	小 麥	油 糟	木 材	石 炭	礦 油	生 ゴ ム	製パ 紙ル 用ブ	探原 油用 料	植 物 纖 維	鐵	自 動 車 及 品	砂 糖	粗 製 硫 酸 <small>アンモニアム</small>	毛 織 物	毛 織 絲	計
昭和1	30.5	3.6	5.2	3.8	2.6	3.9	5.2	4.4	1.2	1.3	1.7	0.5	1.2	1.1	0.4	0.7	3.5	1.9	1.2	1.4	75.3
2	28.7	4.7	6.2	3.3	2.4	2.5	4.5	4.8	1.6	1.6	1.6	0.5	0.9	1.2	0.6	0.8	3.5	1.5	1.6	2.0	74.5
3	25.0	5.1	6.8	3.9	3.1	3.1	4.0	5.1	1.7	1.7	1.3	0.5	1.0	1.3	0.9	1.5	2.9	1.7	1.4	1.5	73.5
4	25.9	4.6	7.2	5.1	3.6	3.2	3.4	4.0	1.9	1.7	1.5	0.6	1.4	1.3	1.2	1.5	1.4	2.2	0.9	0.8	73.4
5	23.4	4.8	6.1	5.3	3.2	2.7	3.3	3.4	2.2	2.5	1.2	0.8	1.3	1.0	1.5	1.3	1.7	1.9	0.7	0.9	70.2
6	24.0	7.0	3.9	3.9	3.0	2.7	3.6	3.5	2.3	3.0	1.1	1.0	1.2	1.1	1.2	1.3	1.3	1.3	0.8	1.0	68.2
7	31.3	6.1	4.5	4.1	2.9	3.5	2.4	2.4	1.9	2.6	1.1	1.1	1.0	1.2	1.2	1.4	0.2	0.5	0.7	0.4	70.5
8	31.6	8.6	7.2	3.7	2.6	2.3	2.1	2.1	1.9	1.8	1.6	1.4	1.2	1.2	1.2	0.7	0.7	0.5	0.4	0.2	73.0
9	32.0	8.2	7.5	4.2	2.3	1.9	1.8	1.8	2.1	1.5	2.5	1.9	1.1	1.2	1.2	1.4	0.4	0.6	0.2	0.7	74.5
10	28.5	7.1	8.1	4.2	2.9	1.7	1.5	2.0	1.9	1.5	2.1	0.9	1.7	1.1	1.5	1.3	0.5	0.8	0.3	0.08	68.7
11	30.7	7.3	7.0	3.3	3.0	1.2	1.3	2.0	1.8	1.5	2.6	0.8	1.6	1.3	1.8	1.3	0.8	1.2	0.4	0.07	71.0
12	22.5	7.9	—	4.2	2.4	0.8	1.2	1.7	1.6	—	—	1.0	1.1	1.1	—	—	0.5	0.5	0.2	0.04	46.7
13	16.4	3.5	—	8.9	3.9	0.4	2.3	1.0	2.5	—	—	0.3	1.1	1.0	—	—	0.2	1.2	0.1	0.01	45.4
平 均	27.0	6.2	6.3	4.5	2.9	2.3	2.9	3.0	1.9	2.0	1.7	0.8	1.2	1.2	1.1	1.2	1.4	1.2	0.7	0.7	68.1
最近三ヶ 年 平 均	23.2	6.2	—	5.5	3.1	0.8	1.6	1.6	2.0	—	—	0.7	1.3	1.1	—	—	0.5	1.0	0.2	0.04	54.4

第十二表について輸入構成の変化を見るに、こゝでは周知の如く國策としての輸入統制が強化されつゝあるから顯著な變化を認められる。即ち何よりも先づ棉花・羊毛の著減が認められる。棉花は從來は輸入全體の二〇

％を占めてゐたが、昭和十三年にはほぼ半減して、一六・四％に落ちてゐる。次には機械及部分品の著増が認められる。之に關聯して鐵類・礦油・生ゴム・鑛・自動車及部分品等の著増も想像されるが、是等の軍需品の輸入額は發表されてゐないから之を明らかにすることは出来ない。

以上の検討によりて明らかなる如く、戰時貿易は種々の意味における構成上に、著しき變化を示しつつある。而して是等の變化は、たゞに貿易構成上の變化として、そのこと自身に意義を有するのみならず、更に重要なことは、貿易構成の變化は一つの現象に過ぎず、更にその根柢に吾國の國民經濟における戰時の構成變化が横たはるからである。吾々は貿易構成の變化を通じて、國內戰時經濟の構成變化を窺ふことが出来るし、同時にまた戰時における吾が國民經濟の優秀性と劣弱性とを認識することも出来る。是等については尙ほ論すべき問題も殘されてはゐるが、茲ではたゞ以上の事實の如き現實の検討に止めておく。(一四・五・二〇)